

様式第3号（第9条関係）

まちなか会議等報告書

まちなか会議の議題	「地域活性化」 ～住み続けられる地域とは～
開催日時	令和7年11月22日（土） 午前10時00分から午前11時30分まで
開催会場	元狭山コミュニティセンター
要請団体名等	瑞穂町議会 広報広聴委員会
参加人数	17名（議員、事務局を除く）
出席議員	チームリーダー：古宮 司会者：下野 議 員：大坪、下野、古宮、香取、井上、浜崎
実施内容等	元狭山地区における課題を探るために、テーマを「地域活性化」～住み続けられる地域とは～と定め、まちなか会議を実施した。グループワークとして3班を構成し、ワークショップで作業進行し、議会への情報を整理、集約することとした。
実施に対するまとめ	<p>ポストイット方式による、意見や提案は付箋数で100枚を超えるものであった。これらのカテゴリーをグループ化すると、住民が求めている活性化に必要なものではないだろうか。これらは、町の基本計画の体系、6「便利で快適に暮らせるまち」、4「つながりと活力にあふれるまち」の施策分野（移動手手段・買い物・通院・道路・土地利用）に集中している。</p> <p>このことは、第5次瑞穂町長期総合計画後期基本計画策定に係る住民意識調査報告書の一部検証ともなった。農地については、元狭山地区の農地所有者の思いからすれば、町の農地全体に対する捉えどころと相違があり、乖離が見受けられる。令和6年度農業振興地域整備計画策定基礎調査結果が実態ではないか。いずれにせよ、今回の議会広聴活動により、地域の具体的な課題が確認できたと捉える。</p> <p>※主な意見については別紙参照</p>

令和8年1月23日

瑞穂町議会議長 小川 龍美 様

瑞穂町議会まちなか会議等実施要項第9条の規定に基づき提出します。

広報広聴委員会

委員長 下澤 章夫

ご意見・提案

移動手段—便利で快適に暮らせるまち

コミュニティバスのコース変更後、不便
コミュニティバスは利用しにくい
コミュニティバスの停留所見直し
コミュニティバスのルートの見直し、畑の真ん中は謎
コミュニティバスはもっと小型車で良いのではないか
道路整備によるコミュニティバスルートの見直し
チョイソコみずほの年齢制限を廃止
デマンドタクシーが1台しかない。
自動運転のデマンドを
デマンドタクシーの運賃が高い
コミュニティバス、デマンドタクシーの効果測定が知りたい
交通がない。免許返納後の優遇措置なし、タクシー券
シルバーパス1000円でも、(元狭山) 使える公共交通が無い
移動手段をきめ細かく、生活利便性が低い
瑞穂町の地域で比べると、交通インフラに大きな格差がある
交通が不便、駅までの交通が無い
交通機関の埼玉県とのつながり、西武線が利用できると東京へ行きやすい
交通の便が悪く、自動車でしか移動できない
交通も、自家用車があれば大変良い
車がないと生活できない

買い物—便利で快適に暮らせるまち

買い物をできる場所が無くなった
店が不足、不便等一同様5件
商店が少ない、多くするには
元狭山には大きなスーパーがない。買い物不便
食料品を買うには青梅市まで行かないといけない
買い物難民を減らす方策はないか。地元食品店、移動スーパー
モールのような、ある程度そういう大型店が欲しい
日常生活に必要な機能がない、商店等
直売所を建て直す

通院・医療—便利で快適に暮らせるまち

元狭山には、病院が無い一同様3件
日常生活に必要な機能がない、病院等
病院へ行くのが大変
みずほ病院は送迎がある

小林病院、千葉医院は個別送迎がある
〇〇医院は駐車場が少ない

道 路—便利で快適に暮らせるまち

狭い道が多い
通学路の整備
道路整備によるコミュニティバスルートの見直し—再掲
小学校からの通学路が狭く、あぶない
都道197号線ガード下の幅を広げる
渋滞が発生している。夕方や圏央道の事故時
日光街道の道路が狭い、広げれば発展しやすい
雨の日の通学が大変
幹線道路が無い（新しい）
駅へのアクセス方法、線路沿いに道を作る
安心して住めること、安全が大事。インフラ等
道路にカラス、ゴミの問題

地域戦略—便利で快適に暮らせるまち・つながりと活力にあふれるまち

旧モールの脇に道の駅が欲しい
国道16号線に道の駅を作る
道の駅等を誘致し、活性化を
国道16号線を活用して商店等を増やす、賑わい利便性向上
国道16号線、圏央道、青梅街道の立地を活かす—同様2件
瑞穂町全体をテーマパークに、わくわくするまちづくり
西武線（埼玉県？）と箱根ヶ崎駅の間にモノレールを通す
横田基地があるため、人が集まりにくい
箱根ヶ崎駅周辺の活性化が必要、駅周辺が寂しい
箱根ヶ崎駅周辺の商店が少ない、瑞穂町規制があるのか
新しい商品開発。さつま芋の干し芋づくり、ふるさと納税の返礼品づくり—同様2件
お茶（抹茶）利用した活性化
元狭山地区に観光農園を増やす
特区を使って開発する。観光特区
大学を誘致し、若者の力を入れる
医院、病院に土地を買ってもらう
子供と大人のコミュニケーションが必要、世代間交流
子供たち、中高生の意見、若い人の参加も必要では
若い世代の意見も必要かと思う
若年層向けの施設や商業施設を作ったら
若者がいない
高齢者の集まる場所がない
ミズカルは高齢者にとって利用しづらい

元狭山コミセンにカラオケ機器を導入
子ども会の在り方、親同士のつながりが大事
駒形町の子ども会パターンが良い
町内会に入らなくても不自由が無いので入らない
元狭山各町内（6町内会）が協力的で交流が多い
地域交流が出来ている
皆さん親切です
野菜がもらえる
新しく町内会加入を誘う題材が少なくお願いしにくい
町内会会員不足問題
町内会費を増やす
核家族化が原因の一つ
独居問題、未婚単身者の増加、孤独死
若者が地元に残れるような環境、交通、職場
若い人の意見を聞きたい、この会議出席者では10年先の話しか聞けない
未来ではなく、今日、明日の問題として考える

土地利用—便利で快適に暮らせるまち・つながりと活力にあふれるまち

農業振興地域の見直し
農振をどうするのか
農振が問題
家庭菜園レベルの畑が多い
農地の空きが多いように思う
市街化区域を拡大する
市街化調整区域を少し考えてほしい
農業従事者がいない、高齢化率が高くなっている
栗原町区画整理が進まない原因を考える
栗原区画整理が進まない
雑地に家を建てられるように
国道16号線沿い50mの農振解除は
土地があっても生かせられない
農振の制限を外す、生活環境施設を増やす
農地が多く、見晴らしが良い
自然が多く住みやすい
自然が豊か、多くて良い
土地に余裕がある。災害が少なくて安心
キジがいるのか楽しい、自然豊か
自然の管理、散策ルート作り
自然を維持するための、メリットデメリット
農地は自然ではない